

## 令和 2 年度青森県協同農業普及事業外部評価委員会における評価結果及び改善策

## 【普及指導活動の体制】

内 容	評価結果	主な意見等	普及指導活動体制の改善策
普及指導の組織体制、人員の動向、資質向上の取組状況等	A : 4 名 B : 1 名	<b>1 普及指導の組織体制</b> ・近年、新規就農者が増加傾向にある中、自立した農業者が多数輩出されるよう、普及指導の役割は増していると思われる。今後とも、普及指導の人員体制の維持・充実に努めていただきたい。 (森委員)	・青森県協同農業普及事業の実施に関する方針により、引き続き普及指導活動の体制づくりを進めていく。
		<b>2 普及指導の人員の動向</b> ・人員は最低でも現状維持でお願いしたい。 (沼田次長)  ・新規就農者が増えていると聞くが、新規就農者は技術も大事だが、伴走型の支援が重要だと思うので、人員の維持・充実に努めてほしい。 (森委員)	・青森県協同農業普及事業の実施に関する方針により、引き続き普及指導活動の体制づくりを進めていく。
		<b>3 資質向上の取組状況</b> ・J Aグループの指導担当と連携することで技術普及が加速する。またJ Aグループの指導担当者への教育もお願いしたい。 (沼田次長)	・普及指導活動において営農指導員との連携は重要であることから、技術研修等について、J A青森中央会及びJ A全農あおもりと連携して行うこととしている。

評価区分 A : 大いに評価できる B : 概ね評価できる C : やや評価できる D : 一部改善が必要 E : 大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

東青地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
トマト指定産地の生産力向上 (R1～3年度)	A：2名 B：3名	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域特産物にフォーカスした重要な事業であると思われた。収量の増加・安定が課題とされていたが、おそらく個人差もあることと思われる。個別成績表の作成の話があったが、成績の差の要因について情報を収集し、指導対象農家に見える形で共有する体制が必要ではないかと思われた。 (吉仲委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別成績表は、年次別に月別の出荷量と規格をグラフ化し客観的に判断できる構成としている。また、個人差を解消するため、農協指導員とともに農家との個別面談を行い、個別成績表を活用しながら、課題を確認するとともにその解決方法について指導を継続していく。 (個別面談の実施：4～6月)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>生産技術を有する農家と、そうでない農家で何が違うのか分析し、底辺の底上げを行ってはどうか。 (沼田次長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別成績表の活用により個々の課題を解決し、単収5 t/10a以上の生産者の確保に取り組む。また、先進農家の技術・工夫をまとめた「ミニトマト栽培マニュアル」を改訂し、技術の早期習得を目指す。 (R3年度の目標：17名)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>農家に新栽培方法、新品種の優位性について理解を深めながら、農家個々のケースに応じ、先進農家、JA、種苗メーカー、その他関係機関等が連携し、農家の経営安定・向上につながることを期待する。 (森委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新栽培方法の導入や新品種の特性については、引き続き栽培講習会、個別巡回指導を実施する。また、技術の早期習得に向け部会員相互による情報交換会の開催を支援する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ミニトマト部会のマニュアル利用研修会等は高く評価できる。新規就農者が成果を得られるよう、今後も関係機関を含めた連携支援に期待したい。 (蒔苗委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培マニュアルは、技術の改善等に伴う改訂版を作成し、新規作付者が早期に技術が習得できるように、先進農家等を講師とした栽培講習会の開催や、JAとの個別巡回指導を継続する。</li> </ul>

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
中南地域の果樹経営に適した特産果樹の生産拡大 (R1～5年度)	A：5名	<ul style="list-style-type: none"> <li>次代の果樹産地づくりに向けた重要な事業であると思われた。原因や対処法に不透明のある病害は、産地形成を阻害する最たる要因かと思われる。関係機関と連携し、細かく技術情報をリリースする体制を望む。 (吉仲委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、新たな技術や防除方法等が開発された場合、生産者には現地講習会や技術研修会等で詳細を知らせている。今後も試験研究機関と連携し、原因究明に取り組むとともに、究明でき次第講習会等で周知していく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>時間がかかっても未開花現象の原因を究明してほしい。 (沼田次長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験研究機関と連携し、他県や国の情報も収集しながら原因究明に努める。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>対象とした3つの果実への県民の期待は高いものと実感している。指針は収穫量の増加はもちろんだが、食味についても御指導いただきたい。 (蒔苗委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産者が収穫期の糖度チェックを徹底するよう、JA、市場等と連携しながら指導に取り組んでいく。</li> </ul>

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
農山漁村女性を中心とした活力ある地域づくり (R2～3年度)	A：4名 B：1名	<ul style="list-style-type: none"> <li>農山漁村女性活動や農産物直売所は事業継続や継承において課題となっていることから、本活動の重要性を認識している。ただ、内容としては普及振興室が単体で取り組むよりも、他の関係課と連携して進めることが望ましいように見受けられた。 (吉仲委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本課題で実施している地域共生社会の実現に向けた取組については、県民局の地域連携部や地域健康福祉部と、定期的に情報交換を行っている。今後も、関係機関等と連携しながら進めていく予定である。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、掘り起こしされたプラン実施者が地域活性化のために活動する際、コロナ禍等により継続が厳しくなった時の強いサポートこそが重要である。御指導をお願いしたい。 (蒔苗委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍等においても、活動が停滞せずに継続できるよう、実施可能な活動方法を模索し、さらに状況に応じて事業等を活用しながら、重点的に支援していく。</li> </ul>

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
<p>中小規模稲作経営体への野菜導入による経営の安定化 (R1~2年度)</p>	<p>A：5名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水田単作地帯における野菜導入は今後、更に注目が増すものと思われる。カットドレーン施工水田における野菜等生産性向上の実証的な検討を進めていただければと思う。 (吉仲委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年2月1日に、カットドレーンの開発者を講師とした研修会を開催し、実践的な使用法について研修を行った。</li> <li>次年度重点普及指導計画において、高収益作物普及展示ほを設置し、カットドレーンなど排水対策を講じた転作田で露地野菜の栽培実証を行う。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>米余りの昨今において、マッチしている取組と言える。作業性、省力性を意識して進めてほしい。</li> <li>ブロッコリーの収穫機械について、福島で収穫ロボットが実証段階にあると聞いている。作業効率を考えれば西北地域への導入を検討してみてもよいと思う。 (沼田次長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロッコリーの収穫機については、生産者や農協の意向も確認しながら検討する。</li> <li>福島県の収穫ロボットについては情報収集し、生産者や農協へ提供する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>生産者に収益性などの指標により、野菜導入の意義について理解を深めていただきながら、生産者の経営の安定を図るため、継続的に取り組んでいくことを期待する。 (森委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、実証ほの結果から収益性や作業時間等を取りまとめ、3品目の10a当たりの指標を作成する。</li> <li>また、次年度以降、水稻作業との競合を考慮した野菜の作付可能面積を提示する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>中泊地域における実証実験が県内の他地域にも生かされる可能性も含め、野菜生産の成功に向けたサポートに期待したい。 (蒔苗委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証結果について研修会を開催する場合、他地域にも広く参加を呼びかけ、情報提供する。</li> </ul>

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
新規就農者の定着と経営 基盤の強化 (R1～3年度)	A：3名 B：2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者に必要な伴走型支援に加えて、先輩農家（農業経営士）の知見を継承する意義のある事業であると思われた。指導対象者が資金等の借入者や受給者に限定されているようである。大変かとは思いますが、対象者の門戸を広げる広報などが必要ではないかと思われた。（吉仲委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援対象者に農業法人雇用就農者や地域おこし協力隊等を含めるなど支援対象者の拡大に努めてきたところですが、今後は県民局や市町村の広報等を活用して研修会や就農相談等の実施について広く周知し、支援対象者の掘り起こしに努める。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>素晴らしい取組だと感じる。自分が新規就農したときには、実際の生産している方を師匠にし、勉強したことが一番役に立った。もっと経営士を活用してほしい。（漆戸委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き市町村に対して、サポート体制への農業経営士等の参画を促すとともに、管内3地区にある農業士会の独自活動として、新規就農者への現地巡回指導等を実施するよう働きかける。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>生産技術、経営管理、資金等、分野ごとに行政、関係機関が役割分担、連携しつつ、新規就農者個々のケースに応じたきめ細かい支援を引き続きお願いする。（森委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サポート体制の強化に努め、新規就農者ごとに必要な支援を把握し、市町村、農協等と情報共有の上、役割分担しながら引き続ききめ細かな支援を実施する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容の研修ごとに参集者から感想などを集約し、次の支援活動に生かしている様子がうかがえた。今年度は市町村との連携が困難だったようだが、対象者への支援回数は多く、今後も期待したい。（蒔苗委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き集合研修の受講者アンケートや個別面談の意見・要望を生かした支援活動を実施する。また、市町村との連携強化を図りながら、対象者の支援をしていく。</li> </ul>

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

課題名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
<p>下北マルシェ、異業種との連携を通じた販売力向上 (R1～2年度)</p>	<p>A：4名 B：1名</p>	<p>・インターネット販売環境の充実は、市場遠隔地の産地にとって大きな後押しになると思われる。ネットマルシェとリアルマルシェの有機的な連携を促しうる支援体制を望む。 (吉仲委員)</p>	<p>・ネットマルシェを通じた販売力強化に向けて支援するとともに、リアルマルシェについても連携して支援を継続していく。</p>
		<p>・withコロナで新たな販売手法の検討は有意義であり、好感が持てる良い取組だと感じた。すぐにうまくいくものではないことは理解している。粘り強く取組を進めてほしい。 (沼田次長)</p>	<p>・ネットマルシェの参加者個々がネット販売を行うために、必要な知識の習得や、消費者視点に立った効果的なPRが出来るように支援しながら取組を進めていく。</p>
		<p>・自主運営移行後の「しもきたマルシェ」は、これまでの蓄積を生かし、地域に根差した持続性のある、更なるオールしもきたとして展開されることを期待する。関係者の引き続きの協力、支援をお願いする。 (森委員)</p>	<p>・「しもきたマルシェ」が自主運営に移行後も連携を密にして、しもきたマルシェ運営に当たって支援を継続していく。</p>
		<p>・ネットショップアプリを利用した販売実施等、コロナ禍にも対応できる活動の支援がなされており、医師からのアドバイスも受けた「ネットマルシェ」の常設化には期待が高まる。 ・女性起業家、異業種との商品化マッチング数は増加している。今後は、異業種との販路マッチングや「出張マルシェ」の参加数増にも取り組んでいただきたい。 (蒔苗委員)</p>	<p>・異業種と連携した販路マッチングの可能性について検討するとともに、他イベントへの「出張マルシェ」について計画的な参加を呼びかけるなど支援しながら取組を進めていく。</p>

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要